

平成20年 3月 31日

東京都知事 殿

団体名：特定非営利活動法人 歯科医学教育国際支援機構  
代表者（役職・氏名）：理事長 宮田 隆印  
団体所在地：東京都中野区沼袋 1-44-2

### 助成事業実施結果報告書

平成19年度東京都市民協力事業助成金の交付決定を受けた事業を完了したので、平成19年度東京都市民協力事業助成金交付要綱第19条の規定に基づき、関係書類を添え下記のとおり報告します。

#### 記

##### 1 助成事業名

「ラオス山岳地域における巡回型医療システムによる口腔健康管理と医療補助者育成プログラム・フェーズ2 就学期学童に対する口腔疾患予防プロジェクト」

##### 2 交付決定額

##### 3 助成事業の実施期間 平成19年7月～平成20年3月

##### 4 事業の実施内容及び実績に関する報告 別紙のとおり

##### 5 事業の収支決算に関する報告 別紙のとおり

##### 6 添付資料（※成果物等の名称）

教育用絵本2冊（原本は現地に寄付、コピーを提出）

教育用パンフレット 2部

3月ワークショッププログラムと資料 1部（コピー）

活動写真

##### 7 その他

事業レポート 1部

## 事業の実施内容及び実績に関する報告書

### 1. 事業の実施状況

#### (1) 事業内容

実施期間	活動内容/活動場所/参加者
5月5日（実施期間外）	<p><b>活動内容:</b> 小学校(North Pakkading Primary School)にて活動開始事前デモンストレーション</p> <p><b>活動場所:</b> Pakkading North Primary School</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家 2 名: 本橋正史准教授(日本大学歯学部衛生学教室)、柳澤宗光教授(ラオス、ヘルスサイエンス大学客員教授)、補助員(現地専門家): Dr. Alounnadeth Sitthipanh(ヘルスサイエンス大学副学長)、現地ラオス人歯科医師 8 名、小学校(North Pakkading Primary School)教員、小学生 20 人(保護者)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> ブラッシング指導、母子教室</p>
9月12日、13日	<p><b>活動内容:</b> プロジェクトサイトの医師との打ち合わせ</p> <p><b>活動場所:</b> Pakkading 地区病院</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家・宮田 隆、学童教育担当者・齋藤みどり、ラオス人補助員(現地調整員)・Dr. Bounsai Thouvisouk, ボーリカムサイ県歯科医師/医師アシスタント 2 名</p> <p>ラオス人通訳・Dr. Alounnadeth Sitthipanh, Dr. Chitakone Thipthamavong</p> <p><b>活動内容詳細:</b> プロジェクトの確認、プロジェクト実施必要機材の確認、機材メンテナンスの確認</p>
10月1日	<p><b>活動内容:</b> 必要資機材(ポータブルユニット)の導入</p> <p><b>活動場所:</b> ヘルスサイエンス大学</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家・宮田隆歯科医師、ラオス人補助員(現地調整員)・Dr. Bounsai Thouvisouk, ラオスヘルスサイエンス大学(ラオス国立大学)歯科医師・医師(9名)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> ポータブルユニットの使用方法、メンテナンス方法の講義</p>
10月30日、31日	<p><b>活動内容:</b> プロジェクト対象小学校でのワークショップ</p> <p><b>活動場所:</b> Pakkading 地区病院、Paksa Primary School, Pakkading North Primary School, Donsay Primary School, Thong Namy Primary School</p> <p><b>参加者:</b> 現地補助員(現地調整員): Dr. Bounsai Thouvisouk, ラオスヘルスサイエンス大学副学長: Dr. Alounnadeth Sitthipanh、歯学部副部長: Dr. Bounnhong Sidaphone, 地域医療学科学科長: Dr. Anousavanh Sanaphay、Pakkading 地区保健関係者、教育関係者(14名)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> プロジェクト計画・内容の説明、歯科教育について</p>
11月11日～15日	<p><b>活動内容:</b> 第1回診療・教育- North Pakkading Primary School にて</p>

	<p><b>活動場所:</b> Pakkading North Primary School</p> <p><b>参加者</b> 教育担当・齋藤みどり、現地補助員(現地調整員) Dr. Bounsai Thouvisouk, ラオスヘルスサイエンス大学歯学部副部長(通訳) Dr. Bounnhong Sidaphone, ヘルスサイエンス大学歯科医師(4名)、North Pakkading Primary School 教員(5名)、South Primary School 教員(3名) *技術指導ボランティアとして日本大学歯学部から2名参加</p> <p>(ワクチン接種と重なってしまい、地域の歯科医師・医師・アシスタントの参加は不可能)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> DMF 検査(4,5年生対象)、フッ素塗付(1,2年生対象)、ブラッシング指導(全学年対象)、歯科教育(全学年対象)</p>
<p>11月24日～11月28日</p>	<p><b>活動内容:</b> ラオス山岳地域・少数民族の口腔状況実態調査</p> <p><b>活動場所:</b> Houa Phan 県</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家・宮田隆歯科医師、教育担当・飯嶋徳子、現地補助員(現地調整員) Dr. Bounsai Thouvisouk</p> <p><b>活動内容詳細:</b> 東京都市民協力助成による国際医療貢献の展開を鑑み、ラオス山岳地域の少数民族の生活環境、教育システム、医療環境などのパイロット調査をおこなった。対象地域は Houa Phan 県のサムヌア周辺の少数民族・モン族である。医療環境については、他のラオス山岳地域少数民族と同様に、ほとんど手をつけられておらず、病人が出た場合、長時間歩くかバスで州都の県立病院に通う事になる。近隣にはヘルスセクターもなく(山岳地帯という地域性と少数民族という偏見など)生活、医療環境は劣悪である。歯科治療は州都や大きな部落などにある伝統歯科医(無資格)に委ねられている。県立病院にも歯科があるが、費用の問題などから患者は少ない。</p>
<p>12月2日～6日</p>	<p><b>活動内容:</b> 第2回診療・教育- Paksa Primary School にて</p> <p><b>活動場所:</b> Pakkading 地区病院、Paksa Primary School</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家・中田信行歯科医師、教育担当・齋藤みどり、現地補助員(現地調整員) Dr. Bounsai Thouvisouk, ラオスヘルスサイエンス大学教員(通訳) Dr. Chttakone Thipthammavong, ヘルスサイエンス大学歯科医師(2名)、Pakkading 地区病院スタッフ(2名) Paksa Primary School 教員(5名)、Paksa Primary School PTA 会長 *技術指導ボランティアとして日本大学歯学部から1名参加</p> <p><b>活動内容詳細:</b> DMF 検査(5年生対象)、フッ素塗付(1,2年生対象)、ブラッシング指導(全学年対象)、歯科教育(全学年対象)</p>
<p>12月29日～30日</p>	<p><b>活動内容:</b> ラオスヘルスサイエンス大学にてセミナー</p> <p><b>活動場所:</b> ヘルスサイエンス大学</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家: 宮田隆歯科医師 教育担当: 石原祥世歯科医師 ラオス人補助員(現地調整員): Dr. Bounsai Thouvisouk, ラオスヘルスサイエンス大</p>

	<p>学(ラオス国立大学)歯科医師・医師(9名)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> 歯科保存学、熱帯感染症(口腔感染症)症状とその治療</p>
2008年1月28日 ～1月30日	<p><b>活動内容:</b> WHO口腔検査基準技術移転セミナー</p> <p><b>活動場所:</b> ヘルスサイエンス大学</p> <p><b>参加者:</b> 技術指導・宮崎秀夫教授、小川祐司先生(新潟大学WHOCC)、ラオスヘルスサイエンス大学歯科医師(8名)、地方核病院歯科医師(2名)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> WHOの口腔検査基準の技術移転(これにより、進行中のパッカディンでの歯科予防検診活動をより効果的に行えるようになる。また、検診から予防プログラムを構築することが出来るようになる)</p>
2月6日～8日	<p><b>活動内容:</b> パッカディン地区の小学校児童に対する歯科治療、啓発活動</p> <p><b>活動場所:</b> Pakkading 地区病院、Paksa Primary School, Pakkading North Primary School</p> <p><b>参加者:</b> 日本人専門家・栗田隆史歯科医師、栗田直美歯科医師、教育担当・齋藤みどり、現地補助員(現地調整員)・Dr. Bounsai Thouvisouk、ラオスヘルスサイエンス大学歯科医師(2名)、パッカディン地区病院ナース(2名)、パッカディン地区病院歯科医師(1名)、小学校教員・各小学校 5名ずつ 計10名、補助・ボランティア参加; 宮田こずえ(明海大学歯学部学生)</p> <p><b>活動内容詳細:</b> パッカディン North Pakkading Primary School, Paksa Primary School の児童の歯科検診・治療(検診を受けた生徒合計・272名、治療を受けた生徒合計・136名)</p>
3月17日	<p><b>活動内容:</b> 活動評価会・ワークショップ</p> <p><b>活動場所:</b> パッカディン地区(ワークショップ会場・Paksa Health Department)</p> <p><b>参加者:</b> 教育担当・齋藤みどり(日本人専門家・宮田隆歯科医師の代理)、現地補助員(現地調整員)・Dr. Bounsai Thouvisouk、ラオスヘルスサイエンス大学歯学部副部長(通訳) Dr. Bounnhong Sidaphone、ラオスヘルスサイエンス大学歯科医師(4名)、Bolikhamsai 県保健局副所長(1) Pakkading 地区病院歯科医師(1名)、Pakkading 地区病院ナース(3名)、Paksa Primary School 教員(2名)、Pakkading North Primary School 教員(3名)、Donsay Primary School 教員(1名)、Thong Namy Primary School 教員(1名)、Paksa 村 村長(1名)、Pakkading North 村 村長(1名)、Donsay 村 村長(1名)、Thong Namy 村 村長(1名)、Borthoun 村 村長(1名)、Pakkading Education Office(1名)、Pakkading Administrative Office(1名)、Pakkading Planning Office(1名) 計27名</p> <p><b>活動内容詳細:</b> 2007年5月からの活動報告。活動評価、各小学校での成果発表、今後の検討</p>

## (2) 実施体制

活動は以下の参加者によって行われた。

日本人口腔専門家 1名（自己資金でのボランティア参加により、2名参加の場合もあり）

日本人ブラッシング指導、学童教育担当者 1名

ラオス人補助員 1名

ボーリカムサイ県医師、歯科医師、医師アシスタント 3名（交代での参加）

ラオス人通訳 1名（必要に応じて2名）

現地ラオス人歯科医師 8名（交代での参加）

各小学校教員

## (3) 日程表

上記（(1)事業内容）のとおり。

## 2. 事業の成果など

### (1) 事業の成果

申請時に、期待できる成果として以下の点を挙げた。

- ① 当該地区就学期学童の口腔健康環境の改善
- ② 当該地区の生活環境改善および保健スタッフ・住民の啓発による口腔健康意識の向上
- ③ 対象となる県のヘルスセクターによる自活的なプライマリーヘルスケアの実施
- ④ ラオス国立大学医学部（現ヘルスサイエンス大学）歯科医師の知識、技術の向上
- ⑤ トレーニングを受けた現地スタッフの口腔感染症に対する知識、技術の向上
- ⑥ 研修を受けた歯科医師、ヘルスセクタースタッフによる持続的なスキルアッププログラムの立案・実施
- ⑦ ラオス国立大学医学部（現ヘルスサイエンス大学）歯学科スタッフの、巡回型の検診・治療方法のノウハウ修得
- ⑧ ラオス国立大学医学部（現ヘルスサイエンス大学）歯学科とデンタルクリニックが存在しない地域間の、巡回型検診・治療方法の確立

このうち「①当該地区就学児童の口腔健康環境の改善」については、長期的なオブザベーションが必要となるため現時点では評価することは出来ないが、将来的に評価できるように疫学や、WHO検査基準を技術移転するなどを行い、これからにつなげていくことが出来る体制を整えることが出来たと考える。また、3月17日に行われたワークショップでは、対象小学校の教員から、「歯の痛みによって学校を休む生徒や、歯の痛みを訴える生徒が減少しつつある」という報告も聞かれた。②に関しては、当該地区の小学校教員に対して事業後にアンケートを取ったところ、事業開始前は知られていなかった、歯磨きの必要性や、虫歯を防ぐ方法等が理解されており、口腔健康意識の向上が見られた。③に関しては、対象となる県のヘルスセクターが事業終了後に事業を継続するというので、小学校での歯ブラシ指導の推進を小学校教員に呼びかける、歯科診療・治療の必要性を広めるなど、といった自発的な動きが見られている。④、⑤については、ヘルスサイエンス大学のスタッフ、現地スタッフともに口腔感染症に対する知識と技術が向上し（日本人専門家の評価）、

特にヘルスサイエンス大学のスタッフに関しては、歯科教育を受けていない地方の小学校の教員や小学校の生徒に分かりやすく教える力がついた(スタッフ自己評価、日本人専門家評価)。⑥、⑦、⑧については、ヘルスサイエンス大学スタッフ、およびに現地スタッフは巡回型診療のノウハウを修得し、プログラムの立案も自らで行うことが出来るようになったが、経済的な理由で、実施は大変難しい状況にあるのが現実である。このように、期待出来る成果として挙げたものに関しては概ねその成果を出すことが出来たといえる。

## (2) 自己評価

自己評価としては、事業の目的は達成されたと思われる。上記のとおり当該地区の口腔健康環境が改善されたかどうかを評価するには、長期的なオブザベーションが必要であるため、現時点で統計に基いた評価をすることは出来ない。しかし、集中的に小学校で活動が行われたこのわずか5ヶ月間の間に、対象小学校では歯磨き週間が確立され、加えて小学校教員の口腔内感染症の知識の向上が見られていることを考慮にいと、以前は歯みがき週間がなかったというこの地域での口腔内健康環境は改善されつつあると推測できる。また、ヘルスサイエンス大学のスタッフらが、疫学調査・統計の知識を身につけることも同時に行われた為、今後、統計学的エビデンスを提示することも出来る。小学校での活動のみならず、ヘルスサイエンス大学での、口腔感染症の講義や、WHO検査基準技術移転セミナー等を行うことが出来、結果として、今後事業の担い手になっていく歯科医師らが事業実施のノウハウを身につけ、今後の事業の立案につながったと考える。

## (3) フォローアップの方法

本法人は2006年度より当該地区を支援しており、治療に必要な資機材、教育に必要な教材を東京都市民協力事業助成で供与していただいた。また、現地スタッフにも十分な技術移転がされ、今後小学校での歯科教育活動が広がっていくような基盤も作られた。そこで、今後は出来る限り現地の自立発展性を促し、継続させていきたいと考えている。上記のとおり、現地では経済的理由により今後の事業の実施が難しいのが現状であるが、現地の経済状態に見合った活動を今後展開して行かなければ、継続は期待できない。そのため、現地の経済状態と理想的な事業とのバランスを取り、より効果的な事業を現地スタッフらとともに考案したいと考えている。また、今後、国内の他の地域にも活動が広がるよう、ヘルスサイエンス大学のスタッフらと協力し、地域の保健活動を定期的に評価していく計画である。

## 事業レポート

- 事業名：「ラオス山岳地域における巡回型医療システムによる口腔健康管理と医療補助者育成プログラム・フェーズ 2 就学期学童に対する口腔疾患予防プロジェクト」



- 団体名：特定非営利活動法人 歯科医学教育国際支援機構
- 連絡先：理事長 宮田 隆  
東京都中野区沼袋 1-44-2 Tel・Fax:03-3386-6605
- 実施期間：平成 19 年 7 月～平成 20 年 3 月

- 実施場所：ラオス人民民主主義共和国 ボーリカムサイ県 パッカディン地区
- 事業目的：当該地域の就学期学童を対象とした口腔疾患、特にう蝕歯予防を中心とした当該地域に適応した予防プログラムを立案し、プライマリー・ヘルス・ケアを介したう蝕歯の予防および初期の治療を行う。さらに、小・中学校の教員、学童およびその家族に対し、食事・栄養指導、衛生指導等の介入によって、地域の衛生環境の改善に寄与することを目的とする。

### ○ 団体からの一言アピール

〔ラオスでの就学期児童に対する口腔疾患予防〕

本法人（特活）歯科医学教育国際支援機構は、2002年にNPO法人として設立された医療系NGOである。医師や歯科医師など、医療関係の人材が集まり設立された本法人は、アジア地域を中心に、口腔疾患予防、感染症予防に取り組んできた。その活動の一環として、2002年より、ラオス唯一の国立大学で医療従事者養成機関であるヘルスサイエンス大学と共に、ラオス国民の健康状態改善のために活動してきた。ラオスは、国連開発機構の発表している「人間開発指標」で、後発発展途上国に分類され、経済発展の遅れ、低所得、教育や医療の供給システムの整備の遅れなど多くの問題を抱えている。医療の供給システムに関しても、医療従事者の不足、資金不足による医療施設の不整備により、国民の多くは医療機関へのアクセスが出来ない状態である。歯科医療は特に遅れており、首都ヴィエンチャン以外では各県に数名の歯科医師がいるのみで、加えて施設の不整備、機材・材料の不足により実際に歯科医師としての仕事出来るのはこのうちのほんの一部にすぎない。近年日本でも注目され始めてきたとおり、口腔内疾患・口腔内感染症は人間の生活のクオリティを落とすだけでなく、全身の健康にも影響を与え、全身疾患を引き起こすことがある。つまりラオス国民の健康改善のために、歯科医療は必須であるが、資金不足という大きな問題に直面しているラオスで歯科医療の急速な発展を望むのは大変難しい。そこで、本法人では、ラオスの経済に合わせて今後も継続していくことができ、効果が高い事業として、今回、ボーリカムサイ県のパッカディン地区の小学校で口腔疾患予防活動を行った。活動内容としては、短い事業期間と資金を考慮にいれ、2つの小学校を2回ずつ訪問し、歯科教育（栄養指導を含む）、ブラッシング指導、歯科診療、歯科治療を行った。そして、事業の

終了時には、パッカディン地区の役員、全小学校の教員と村長を集め、この対象校 2 校での事業を評価し、歯科教育を行うことにより、他小学校でも歯科教育を開始することができるような工夫をした。活動には、日本から日本人専門家が毎回数名参加し、ヘルスサイエンス大学のスタッフおよびに地区病院スタッフと共に事業を実施し、活動を通してスタッフのレベルアップのための技術移転も同時におこなった。

事業の成果としては、以下の点を挙げることができる。

- ① 対象小学校での歯科に対する知識の向上
- ② 対象小学校での歯ブラシ習慣の確立
- ③ 対象地区の医療従事者およびに小学校教員の口腔内衛生に対するモチベーションの向上
- ④ ヘルスサイエンス大学スタッフへの予防歯科、及びに口腔検査の技術移転

実際に口腔内環境が改善されたかどうかと証拠付けるためには、長期的オブザベーションが必要であるため、現時点ではこの点の評価をすることは出来ないが、対象校での歯ブラシ習慣の確立や知識の向上、モチベーションの向上等を評価に入れると、口腔内環境が改善されつつあると期待できる。また、3月に行われたワークショップでは、対象小学校の教員より「歯の痛みによって学校を休む生徒や、歯の痛みを訴える生徒が減少しつつある」という報告も聞かれた。事業より得られた最大の成果として、①対象地区の医療従事者およびに小学校教員のモチベーションの向上により、他小学校、他地域への活動の呼びかけが始まったこと、②ヘルスサイエンス大学のスタッフがイニシアティブをとり、3月のワークショップを進め、教育用パンフレットの作成や、講義を行うなどに積極的に取り組む姿が見られ、今後の自立発展が期待できるようになったことが考えられる。周知のとおり、国際貢献の難しさは、事業の実施ではなく事業を自立発展させ、現地の住民が継続してくことである。今回の事業は、現地住民が継続して行くことが予想できる。それには、やはりモチベーションの向上と、ラオス人医師らへの技術移転が大きな役割を果たしたと考えられる。また、事業の実施となると資金が必要であると考えがちであるが、歯科教育、ブラッシング指導、歯ブラシ習慣の確立、栄養指導は小学校教員が、少ない経済的負担で、今後継続して行くことが出来る。今後、本法人としては、現地の経済状態と理想的な事業とのバランスを取り、現地スタッフらとともによりよい事業を考案したいと考えている。そして、国内の他の地域にも活動が広がるよう、ヘルスサイエンス大学のスタッフらと協力し、地域の保健活動を定期的に評価していく予定である。